

2011 年度「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」報告書
「ロシア連邦・トゥバ共和国および台湾に保存されている
トゥバ古地図のデータ化に向けての基礎調査」

等々力 政彦（トゥバ音楽演奏家）

概要：南シベリアのトゥバ共和国は、18 世紀中旬から中国（清と中華民国）とロシア（ロシア帝国とソビエト連邦）との間で領土係争があつて、部分的に現在もそれが引き継がれている場所の一つである。その面積 17 万 k m^2 は、ユーラシア大陸の中では大きな面積とはいえないまでも、世界で係争状態にある領土としては、決して小さいものとはいえない。現在、領土問題は、現状のロシア連邦所属を認めるという形でほとんど決着しているといつてよい。しかしながら、この地域における昨今の中国の経済進出や資源採掘を考えると、今後の両国の状況次第では、あらたな火種となる可能性を含んでいる。この地域はアクセスが悪いこともあり、これまで領土問題としては、国際的にはそれほど大きな関心を払われてはこなかった。

トゥバの領土問題は、現在までのところ、おおむね清代と中華民国時代の資料を中心とした中華人民共和国や台湾の研究者による研究と、ロシア語とヨーロッパの諸言語による文献を中心としたロシア・欧米の研究者による研究に分離してしまっているといつてよい。これに対して申請者は、フィールドワークによってまず現地を良く知り、文献にあたるというスタンスで、トゥバ研究を続けてきている。具体的なテーマの一つは、領土問題の基本資料となる歴史的な地図の変遷を追っており、それら他称による歴史地名と現地のトゥバ語による地名との比定を行うことで、無視されがちな先住民のプレゼンスを国際的な問題としてとりあげようと努力してきた。その成果はこれまで、*Old Maps of Tuva* シリーズとして 2008 年と 2009 年に出版された。さらに等々力（2010）において、これまで知られているトゥバの歴史地図の変遷のおおまかな総括もおこなった。このような地道な研究は、これまでほとんど行われてこなかったものである。

一連の研究から、日本国内にあるトゥバの歴史地図や、海外ですでに刊行されている資料に含まれるトゥバの地図資料に関しては、不十分ながらもかなり状況が把握できるようになってきた。そこで今回、これまで研究がなされてこなかったトゥバ共和国内外にある歴史地図の調査と、清代のトゥバに関する資料が豊富な「故宮博物院」、「蒙藏委員会」、「中央研究院」を有する台湾での地図調査をおこない、上記の知見をさらに詳細にした。

先住民族の研究者が、自領の領土問題研究に対等な立場で参画するという

研究体制は、ともすれば国家の有力な民族集団だけによって進められがちな領土交渉に対して、創発的で新しい領土交渉モデルを提供すると考えられる。そのような体制を整えるためには、直接の利害関係の少ない国家の関与が鍵を握っている。そして日本は、その役割を担うことができると考えている。

訪問地：Carolina Rediviva (ウプサラ)；Kungliga Biblioteket (ストックホルム)；Det Kongelige Bibliotek (コペンハーゲン)；Библиотека Российской Академии Наук, Российская Национальная Библиотека (サンクト・ペテルブルク)；Российская Государственная Библиотека (モスクワ)；Республиканский Краеведческий Музей им. Алдан Маадыр, Тувинский Институт Гуманитарных Исследований при Правительстве Республики Тыва (クズル)；Минусинский Краеведческий Музей им. Н. М. Мартянова (ミヌシンスク)；Национальный Краеведческий Музей им. Л. Р. Кызласова (アバカン)；Томский Государственный, Университет, Томске Библиотек (トムスク)；Иркутский Государственный Лингвистический Университет, Иркутская Областная Государственная Универсальная Научная Библиотека им. Молчанова-Сибирского (イルクーツク)；中国国家图书馆, 北京大学, 中国第一历史档案馆 (北京)；中央研究院, 國立臺灣大學, 故宮博物院, 國家圖書館, 蒙藏委員會 (台北)

成果：調査旅行終了後、2011年12月10日（土）北海道大学・スラブ研究センターにて中間報告をおこなった。

現在の地名データは、Wikimapia の英語・日本語・ロシア語のサイトにおいて順次アップデートしているところである。

<http://wikimapia.org/#lat=51.7925378&lon=94.156858&z=6&l=1&m=b>

今回の調査では、特に Johan Gustav Renat が新疆より持ち帰ったアジア中央部の地図、Kirilov, Ivan Kirilovich による最初の正確なトゥバ（当時の唐努烏梁海）地図を現地で実見、検討し、先行研究の誤りも含め、現在データの整理をおこなっている。また、台湾・中央研究院・近代史研究所檔案館では民国13年（1924年）の「唐努烏梁海述略」を発見。資料の少ない、清末からロシア移行期の貴重な文献の一つであり、東京の国立国会図書館蔵の民国8年（1919年）『唐努烏梁海図』とも関係の深い資料であることがわかった。

これらは、整理でき次第、順次発表してゆく予定である。